

## 1701 古文書解読による南海トラフ巨大歴史地震像の解明

担当者 山中佳子(sanchu@seis.nagoya-u.ac.jp)

- ・実施機関（代表機関）名

名古屋大学

- ・研究目的

本研究では古文書を読み解き、南海トラフ巨大歴史地震の地震活動、地殻変動、津波、人的・建物的被害状況などを地震毎に面的に整理し、情報量が多く地球物理的データも存在する昭和の南海、東南海地震と比較することによって南海トラフでの巨大地震やそれに伴う誘発地震の具体像を明らかにすることを目的とする。古文書の解釈は人によってかなり異なることから、すでに解読がなされているものも含めて再検討し、南海トラフで発生する巨大地震の震源過程の特徴を明らかにするとともに、繰り返し特性を解明し次の予測に役立たせることを目的とする。中京地域にはまだ翻刻されていない史料もたくさんあることから南海トラフ巨大地震に関する古文書調査、翻刻も並行して行う。近年、防災・減災のために自治体等でも古文書史料の重要性が指摘されてはいるが、史料収集には手間がかかることに加え、くずし字、古文というところで抵抗がある。しかし過去の災害は地域性をよく反映しており、防災減災を考える上では大変役立つ。そこで本研究で翻刻した史料、収集した史料について地域防災に役立てやすいようなフレンドリーなデータベース化を目指す。